

2008. 10. 22

タミフル耐性ウイルス感染率

鳥取県突出3割超

インフルエンザ患者全国調査

ウイルス三部の小田切孝入室長は「県内患者の耐性ウイルスが近隣自治体などに感染した可能性は低い」とみている。

小田切室長は「なぜ鳥取県だけ突出して高かったのかは分からないが、耐性ウイルスが広まると治療法などで医療現場に影響が出戒している」と指摘。日本でのタミフル使用量は世界生産量の七割を占めるとし、「継続して監視する必要がある」と警戒している。

国立感染症研究所が

昨冬、全国のインフル
エンザ患者を対象に行
った緊急調査で、治療
薬「タミフル」が効か
ない耐性ウイルスを持
つ患者の割合が、鳥取
県内で30%を超えてい
たことが二十一日まで
に分かった。国内平均
の2・8%を大きく上

回っている。

二〇〇七年十一月以
降、欧州を中心にタミ
フル耐性ウイルスが流
行している深刻な事態
を受け、世界保健機関
(WHO)が各国に緊
急調査を依頼。同研究
所が全国七十六の地方
衛生研究所から集めた
患者のAソ連型ウイル

ス(H1N1)千五百

四十四株を解析した結
果、2・8%に当たる
四十四株が耐性だっ
た。
鳥取県では、提出さ
れた検体六十八株のう
ち二十二株(32・4%)
で耐性ウイルスを確
認。県衛生環境研究所
(湯梨浜町)が定点観

測している県立中央病

院など九医療機関を受
診した患者のもので、
主にタミフルを服用し
ていない小学生から確
認された。
耐性は強く、感染拡
大も懸念されるが、隣
接する鳥根県では国
内平均以下にとどま
っており、同研究所